

## ふれあいバスの改善方針について

### ふれあいバス実証運行の実績（平成21年7月～平成22年3月）

#### ● ふれあいバス3路線の実績

	尾鷲地区	八鬼山線	ハラソ線	合計
利用者数	9,575人	18,333人	14,811人	42,719人
利用収入	1,384,381円	8,177,487円	5,455,728円	15,017,596円
運行費用	8,190,440円	16,652,203円	13,436,110円	38,278,753円
収支率	16.9%	49.1%	40.6%	39.2%

ふれあいバス3路線の全体収支率は、39.2%と平成19年度実績35.5%と比較すると3.7%向上

### ふれあいバスの実証運行による効果

#### 周辺地域からの通勤・通学の確保

- ➡ 周辺地域からの地元尾鷲高校への通学定期利用者の増加。（H20年度4人→H21年度10人）
- ➡ 周辺地域から通勤定期利用者が見られた。

#### 公共交通空白地域の解消

- ➡ ふれあいバス（尾鷲地区）の利用者に対して実施したアンケート結果によると、公共交通空白地域であった「光ヶ丘」居住の利用者が最も多かった。

ふれあいバスの運行により交通弱者に対する移動手段を確保するなど一定の効果を挙げている。

### 課題整理と改善方針の作成

収支率の向上や空白地域の解消など、一定の効果があるものの、連携計画に定める収支率の目標数値に達成していない。

アンケート調査や利用実態等を踏まえ、ふれあいバスの課題整理を図る。

ふれあいバスの改善に向けた方針を定め、利便性や効率性のバランスに配慮した、地域の実情に合った公共交通を構築。

## ふれあいバスの課題整理及び改善方針

### 課題

### 改善方針

尾鷲地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現行の路線については、多くの利用ニーズに対応できるよう、系統数が多い運行形態となっている。そのため、路線が複雑となっており、利用者にとってわかりにくいなど、乗車機会を逃す要因となっている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成21年度の利用実態を踏まえ、利用の少なかった路線を縮小し、利用者にとってわかりやすい路線を構築する（路線の簡素化）</li> </ul>
八鬼山線 ハラソ線	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 八鬼山線及びハラソ線の3便目の市街地方面行き（現行15:00頃市街地に到着）を利用しても、その折り返しが市街地を16:00頃に出発するため、滞在時間（約1時間）が短く利用しにくい。</li> <li>● 本路線を利用している通勤利用者の終業時間が18時頃であるため、最終便を利用する際に待ち時間が長い。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 八鬼山線及びハラソ線の市街地方面への3便目の運行時間について、周辺地域を13時頃に発車するダイヤを編成。（これにより市街地で2時間程度の滞在が可能）</li> <li>● 尾鷲高校の生徒の利用状況を調査し、影響がなければ、最終便を30分程度早める。</li> </ul>
八鬼山線	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現行ダイヤについては、JRの下り列車との接続を優先したため、午前7時のJR上り列車と連絡していない。（八鬼山線沿線地区や古江地区からアンケート調査や市長の手紙等を通じ多く寄せられている意見）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● JR上り列車（7時）に接続可能なダイヤを編成するため、始発便の時間を早める。</li> <li>● 始発便のみ古江地区から運行するよう路線を延長。</li> </ul>

## 改善に向けたタイムスケジュール

事業の名称	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会の開催			●		●	●	● 必要に応じて随時開催 ●	
基本方針を踏まえた路線・ダイヤの素案作成	●	●						
パブリックコメントの募集・取りまとめ			●	●				
パブリックコメントを踏まえた路線・ダイヤの素案作成				●	●			
交通パンフレットの作成						●	●	

# ふれあいバス八鬼山線延長路線図



曾根次郎坂・太郎坂